

正野賞の副賞メダル図案の公募

日本気象学会では、来年度から従来の山本・正野論文賞の主旨を継承発展させて、「気象学及び気象技術に関し貴重な研究をなした若手研究者」を顕彰する正野賞と、「基礎研究・応用技術開発を問わず優秀な論文を発表した新進の研究者・技術者」を顕彰する山本賞を設けることとしました。これに伴い、新たに正野賞の副賞としてメダルを贈呈することが決まり、ここに、メダルの図案を広く公募することになりました。

なお、山本・正野論文賞は、1980年に設けられた旧山本賞を発展的に継承して1990年に設けられた賞で、メダル図案は旧山本賞の図案がそのまま採用されています。この経緯を考慮して、新しい山本賞のメダル図案は旧山本賞のメダル図案を継承することとします。

次頁に日本気象学会メダル一覧を示します。従来、藤原賞や山本・正野賞の副賞としていた直径110 mmのメダルを作れる職人がなくなったことから、今後製作するメダルの直径は正野賞も含めて80 mm いたします。各賞のメダルの図案はそれぞれ、学会賞は

太陽と雲、藤原賞は渦、山本・正野論文賞は富士山と雲、堀内賞は太陽、奨励賞は雪と雷となっています。正野賞のメダルにも正野重方先生の業績にちなんだ図案のアイデアが望まれます。採用作品には薄謝を贈呈します。

応募に際しては、実物大の円形の中に白黒のコントラスト付きの図案を描き、必要な添え書きとともに、日本気象学会事務局宛（〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内）に11月15日までに郵送して下さい。

なお、参考までに、正野重方先生は1944年から1969年までの長きに渡って東京大学で気象学講座を担い、多くの優秀な研究者を育てられました。また、1950年に大気擾乱の研究で日本学士院賞を受賞されるなど、日本の気象学の発展に貢献されました。著書に「気象学総論」などがあります。天気16巻（1969年）12号に追悼文が掲載されています。



学会賞

直径：80 mm

材質：銅（太陽：金／雲：銀）

表面：太陽と雲

裏面：贈／氏名／西暦



藤原賞

直径：110 mm

材質：銅，銀いぶし（賞：金／咲平：銀）

表面：渦

裏面：藤原賞／贈／氏名／日本気象学会／西暦



山本・正野論文賞

直径：110 mm

材質：銅，銀いぶし（賞：金／富士山：銀）

表面：富士山と雲

裏面：山本・正野論文賞／贈／氏名／日本気象学会／西暦



堀内賞

直径：80 mm

材質：銅，銀いぶし

表面：太陽

裏面：贈／氏名／日本気象学会／西暦



奨励賞

直径：80 mm

材質：銅，銀いぶし（賞・稲妻：金／雪：銀）

表面：稲妻と雪

裏面：奨励賞／贈／氏名／日本気象学会／西暦